



地元住民と移住者の交流の場を作り、相互理解を深めようと江府町で活動。定期的に防災や食などをテーマにした交流会を開き、学習の中から融和を図る。

町が企画した、移住者と地域住民の交流イベントが発足のきっかけ。

「地元の人の当たり前が分らない」「地域ルールを知っていれば楽だった」などの意見があり、定期的な交流の場を求める声から昨年誕生した。ただし、発足に当たっては「ただ交流を行うだけの内容だったら会は続かない。今、大事



救急救命を学ぶ

江府町

まなびや —ひの谷学舎—

地域住民と移住者が交流の先にある
地元課題の共有を目指す

常食について学んだ。参加者からは「学びながら率直な意見が言えて面白い」などと好評。本年度は「食」がテーマ。前川仁三夫代表は「地元の人はもう分っている」と思っているが、移住者は「言われないと分らない」ことが結構ある。お互いに自由に言える雰囲気の中で、理解を深めた」と期待する。



非常食を試食しながら防災を学ぶ

まず、今暮らしている人たちの活動を知ることから始めたい。まなびやは土の中のミズのように、地域づくりの土壌造りに取り組みたいです。

Voice

代表
前川 仁三夫さん

